

4. 観光案内サイン整備計画

4.1 デザイン仕様


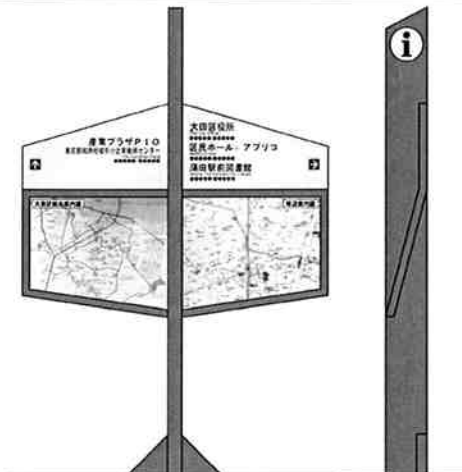
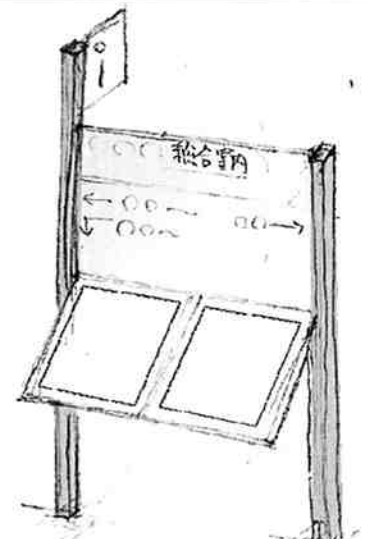
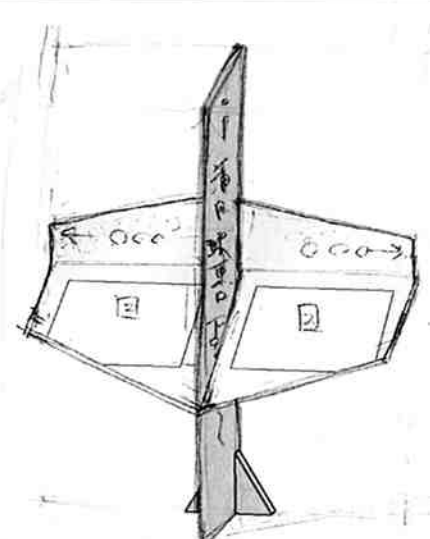
(1) デザインパターン

表 5 デザインパターン

	タイプ1	タイプ2
デザイン コンセプト	大田区らしさのひとつである町工場のイメージとして、支柱にステンレス加工品、盤面にアルミを使用し、基調色を支柱や盤面の主要な箇所によく使用したものである。	大田区の観光地の既存サイン(ex. 歴史と文化の散歩道、馬込文士村)と調和するデザインとして、支柱に自然石もしくは擬石をあしらったものである。
素材	支柱：ステンレス 盤面：アルミ板	支柱：自然石、もしくは擬石 盤面：アルミ板
立面図		
イメージ		

大田区らしさを案内サインのデザインに反映することを前提に、デザインパターンとして下記に示す4タイプを比較検討しました。

このうち「タイプ3」と「タイプ4」については、利用者が触れやすい部位に突起や角が出現するため、安全性に課題があることから不採用とし、「タイプ1」と「タイプ2」を選定して検討を行いました。

	タイプ3	タイプ4
デザイン コンセプト	大田区らしさのひとつである町工場のイメージとして、アルミ等の素材色を使用した盤面を使用したものである。	羽田空港国際化を受け、飛行機のイメージをそのままデフォルメした形状としている。
素材	支柱：アルミ押出形材 盤面：アルミ板	支柱：ステンレス 盤面：アルミ板
立面図		
イメージ		

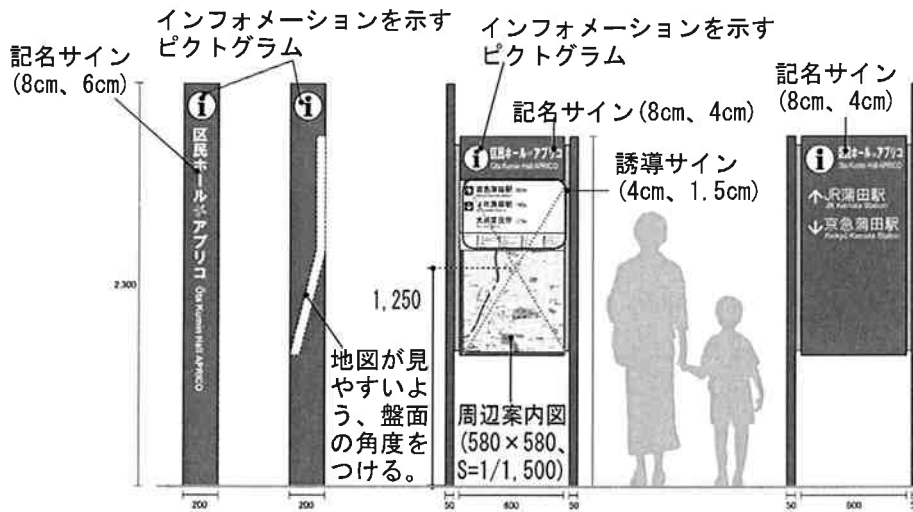
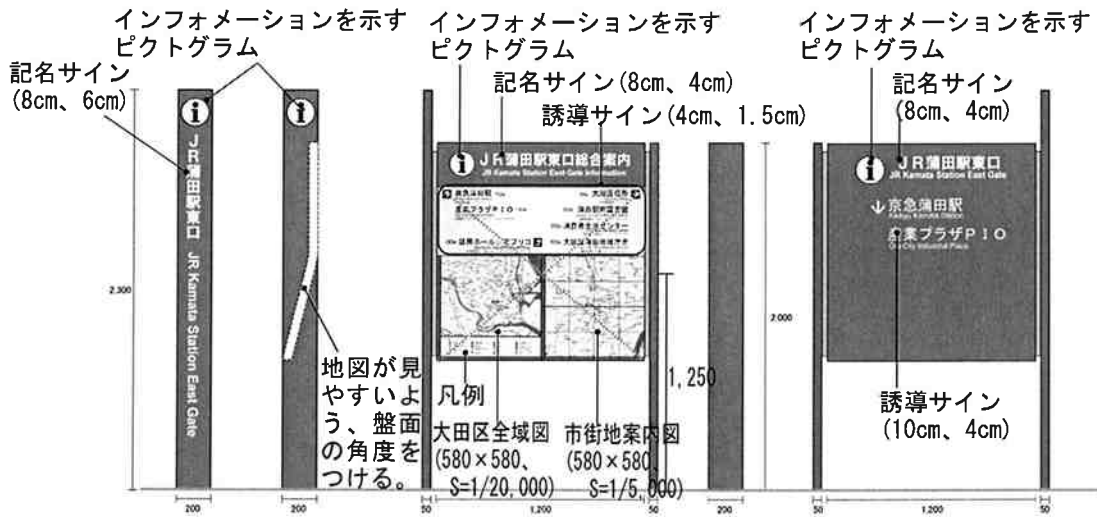
(2) サイン種別形態

1) 案内サイン

[タイプ1]

縮尺：1/50

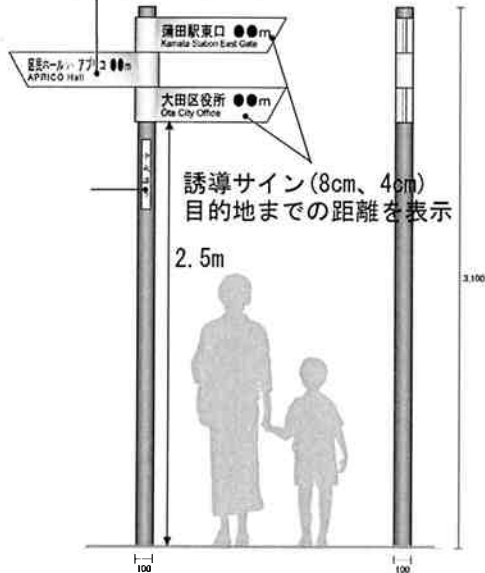
凡例：サイン (○cm、○cm)
 ↓
 日本語の文字高 外国語の文字高



縮尺：1/50

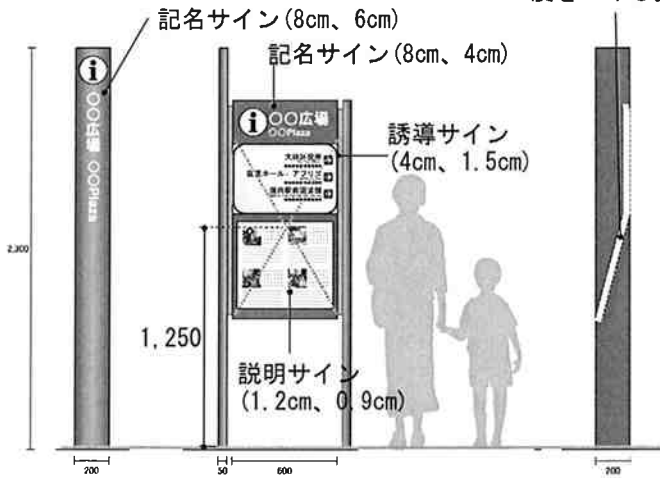
2) 記名・誘導サイン
[タイプ1]

誘導サイン(8cm, 4cm)
目的地までの距離を表示



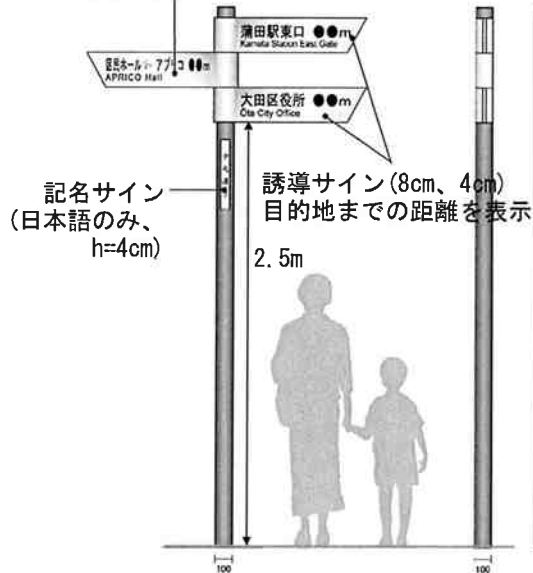
3) 説明サイン
[タイプ1]

凡例：サイン (○cm, ○cm)
日本語の文字高 外国語の文字高



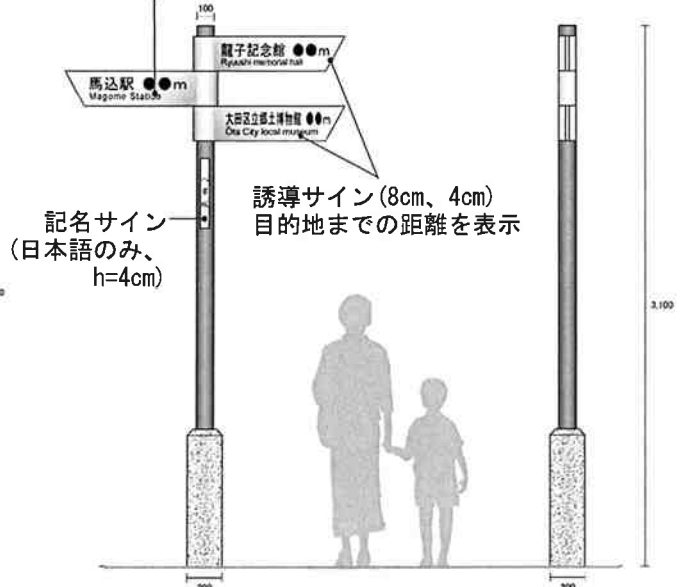
[タイプ2]

誘導サイン(8cm, 4cm)
目的地までの距離を表示



[タイプ2]

誘導サイン(8cm, 4cm)
目的地までの距離を表示

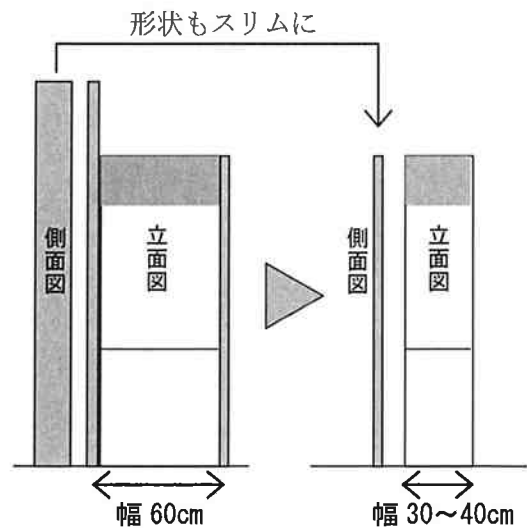


【 参考 ～ 設置方法 ～ 】

小拠点等にサインを設置する際には、説明サイン（小）や記名・誘導サインを設置するだけの十分なスペースが確保されない場面が想定されます。その際には、省スペース化を図るものとし、以下の3案を比較検討の上、適切な方法を選択します。

① サイン形状のスリム化

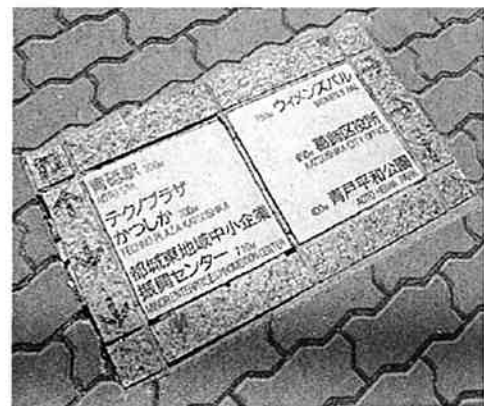
案内サイン(小)の幅は約65cmであるが、サインのスリム化を図り、幅30~40cm程度とする。



サインのスリム化

② 路面表示

車道や歩道の路面を使用したサインを設置する。記名、もしくは、誘導サインの機能を持たせることが可能である。ただし、垂直の立ち上がり面が無く、遠方からは認識できないため、連続的に設置する必要がある（ラインによる表示も検討する）。



路面表示の事例（東京都葛飾区）

③ 既存の柱、塀、壁の利用

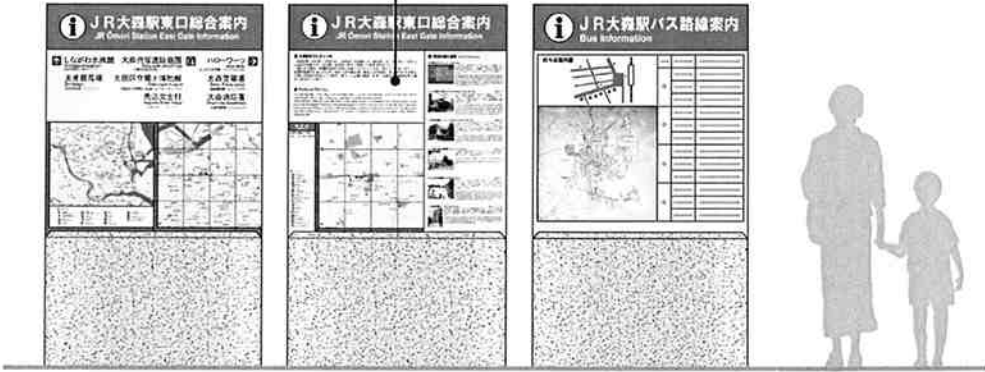
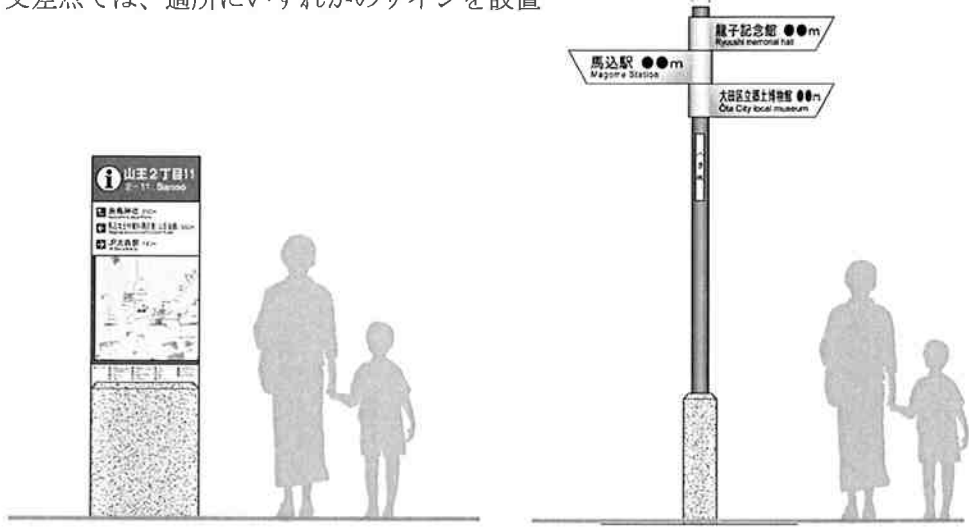
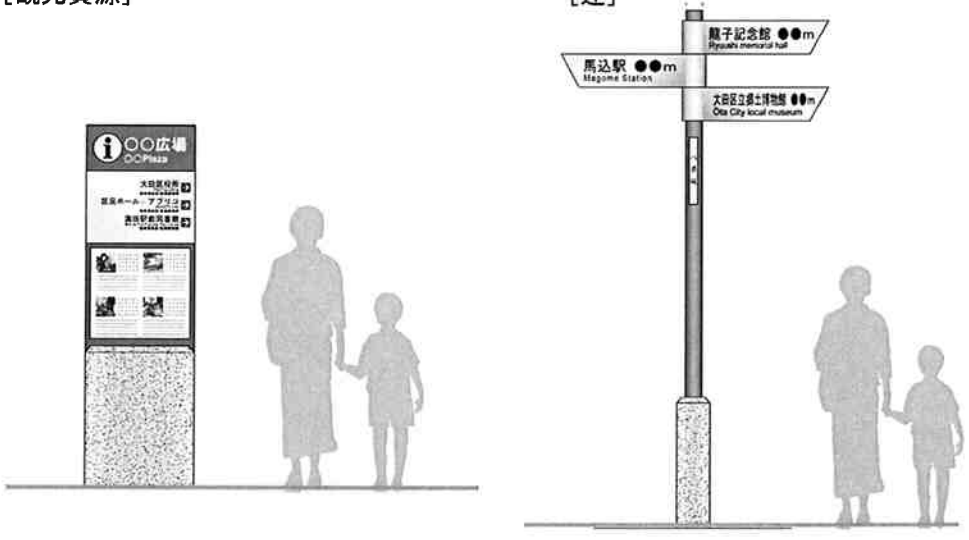
既存の照明柱等が乱立している場合には、その立ち上がり面を利用したサイン設置が考えられる。



既設の照明柱に設置した事例
（群馬県渋川市）

(3) サイン組み合わせパターン

	タイプ1
大拠点	<p>案内サインと説明サインの組み合わせ</p> <p>大田区や地区のあらまし</p> <p>大田区全域図 市街地案内図 周辺案内図 説明サイン バス路線図</p>
中拠点	<p>交差点では、適所にいずれかのサインを設置</p> <p>周辺案内図</p> <p>蒲田駅東口 ●●m Kamata Station East Gate 区民ホール・アプリコ APRICO Hall 大田区役所 ●●m Ota City Office</p>
小拠点	<p>[観光資源]</p> <p>[辻]</p> <p>説明サイン</p> <p>蒲田駅東口 ●●m Kamata Station East Gate 区民ホール・アプリコ APRICO Hall 大田区役所 ●●m Ota City Office</p>

<p>大拠点</p>	<p>タイプ2</p> <p>案内サインと説明サインの組み合わせ</p> 
<p>中拠点</p>	<p>交差点では、適所にいずれかのサインを設置</p> 
<p>小拠点</p>	<p>[観光資源]</p> <p>[辻]</p> 

(4) 色彩

大田区は、東京湾と多摩川といった水辺に囲まれ、国際化を迎える羽田空港を擁しており、海や空のイメージの強い区であります。平和のシンボルマーク(図 21)にも見られる緑色(シーグリーン)や藍色は、まさにそのイメージを彷彿とさせるカラーであり、既存のサインにおいても、青や緑を基調としたものが多く存在することから、この2色を本サイン計画の基調カラーの候補色として挙げることにします(図 22、図 23)。

図 21 平和のシンボルマーク 写真 5 区の木



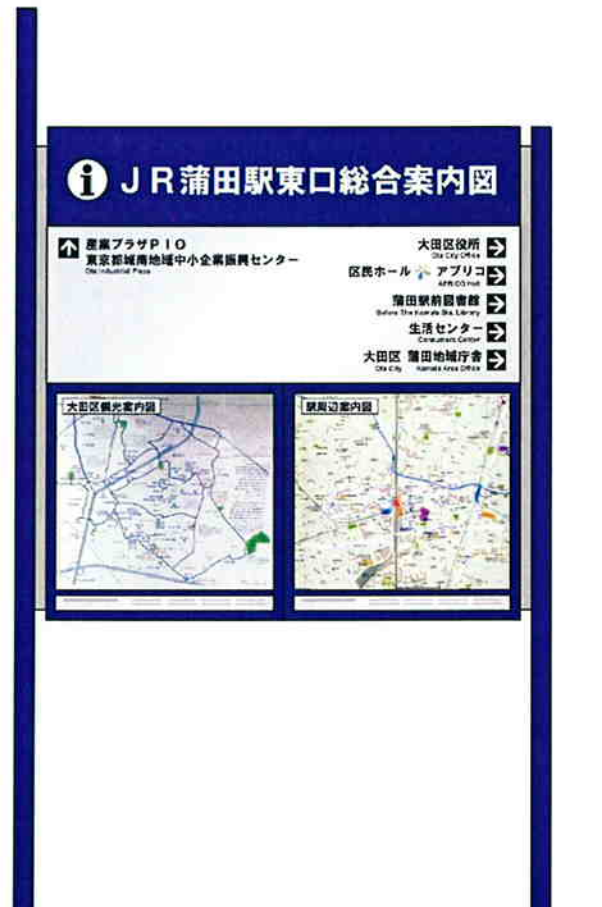
写真 6 緑のアクセントカラー



図 22 シーグリーンを基調色とした場合



図 23 藍色を基調色とした場合



(5) 配置の基本的な考え方

駅等の大拠点から目的地（観光拠点等）に至るまでの動線上に連続してサインを設置するものとします(図 24)。その際、大拠点、中拠点、小拠点の位置づけは以下(表 6)に示すとおりとし、情報のすみ分けにより、区内外からの来訪者にスムーズな案内を提供できるサイン配置を行います。

表 6 各拠点の提供情報

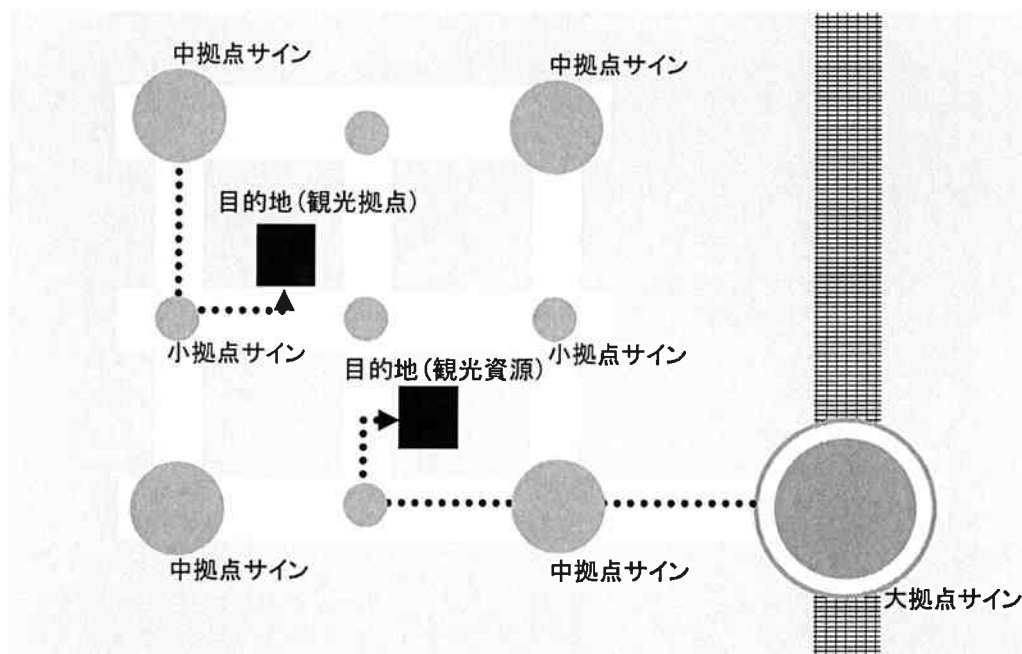
	大拠点	中拠点	小拠点
概要	移動の起点または終点となる地点。	移動の主要な分岐点となる地点。	移動の分岐点となる地点。
設置箇所	駅・主要観光拠点 ^{※1}	主要交差点・観光拠点 ^{※2}	辻・観光資源 ^{※3}
設置するサインの種類	案内・誘導・記名・説明	案内・誘導・記名	誘導・記名・説明
提供情報	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区全図(1/20,000~1/25,000) ・市街地案内図(1/2,000~1/5,000) ・周辺案内図(1/1,000) ・施設誘導 ・バス路線 ・町丁名 ・説明写真・文 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺案内図(1/1,000) ・施設誘導 ・町丁名 ・通り名 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設誘導 ・町丁名 ・通り名 ・説明写真・文

※1 主要観光拠点：移動の起終点となる観光拠点^{※2}

※2 観光拠点：観光資源^{※3}のうち、「大田区観光振興プラン」において認知度と来訪率がともに高い観光資源として分類されたもの

※3 観光資源：「大田区の観光に関する基本調査報告書」（平成 20 年 8 月大田区）において抽出された観光資源

図 24 サインの階層的な配置による歩行者誘導の概念図



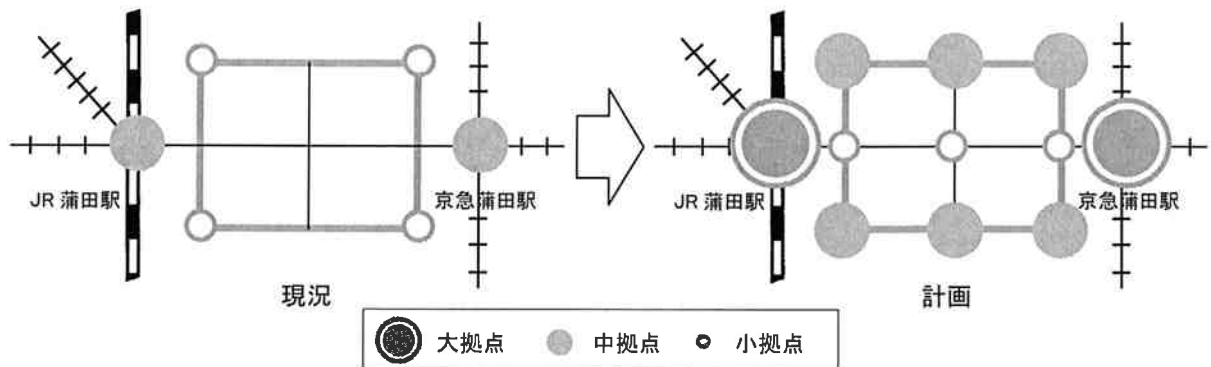
4.2 ケーススタディ

前節のサイン配置の基本的な考え方に基づき、7つの検討モデルエリアを対象として配置計画のケーススタディを行いました。

ケーススタディ 1：蒲田駅周辺

サイン配置方針： 既存サインの整理・リニューアルおよびサインの新設

蒲田駅周辺のケーススタディは、行動起点を JR 蒲田駅、京急蒲田駅と想定すると、目的地となる施設は面的に広がっています。そのため、JR 蒲田駅と京急蒲田駅の2駅間を結ぶ主要な経路に加え、商店街等の小さな通りを含めた2駅間のエリア全体に、**既設サインを撤去**しながら投網配置によって配置することになります。

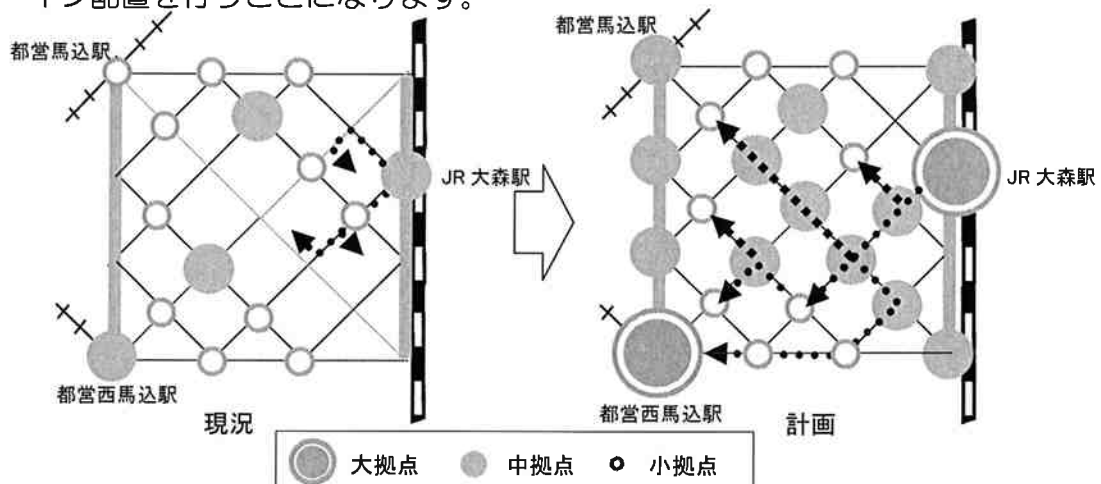


ケーススタディ 2：大森・馬込周辺

サイン配置方針： 既存サインの活用およびサインの新設(主に中拠点サイン)

大森・馬込周辺は、行動起点が JR 大森駅と都営西馬込駅と想定すると、目的地となる施設は馬込文士村関連や大森貝塚碑、坂道等の小規模あるいは無形的な資源が多数分散しています。また、既存の誘導・説明サインが点在しており、サインはその役割(小拠点サイン)を担っています。

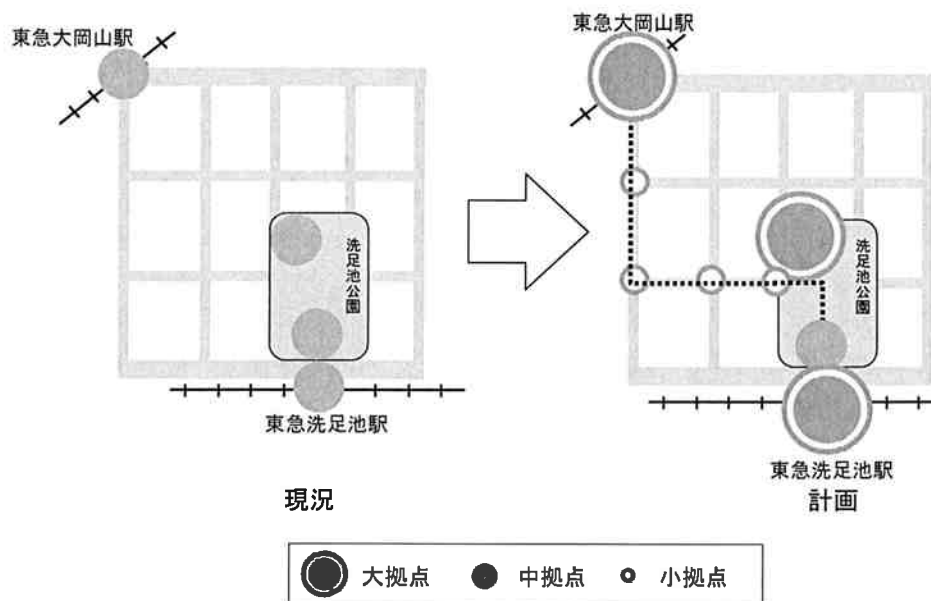
そのため、駅から主要道路・交差点を中心に、**既存サインを補う**階層的なサイン配置を行うこととなります。



ケーススタディ 3 : 洗足池周辺

サイン配置方針 : 既存サインの活用およびサインの新設

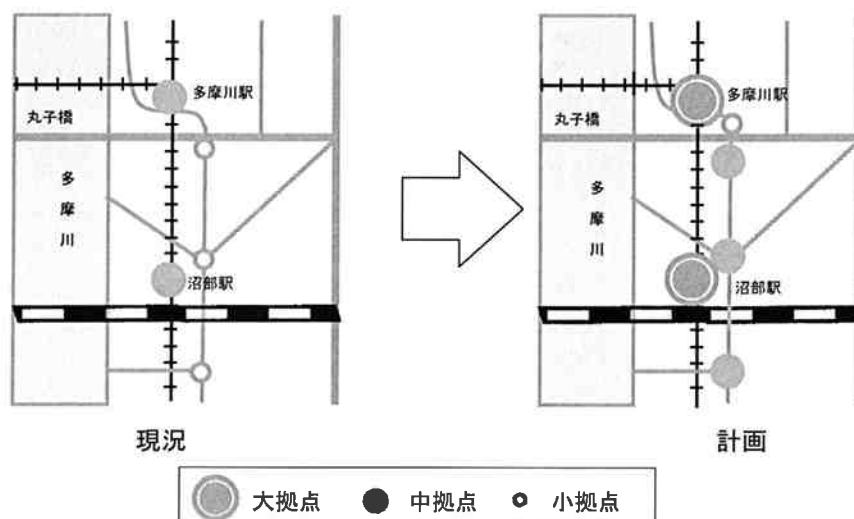
洗足池公園周辺のケーススタディは、行動起点を東急洗足駅、大岡山駅と想定すると、目的地となる施設は洗足池です。そのため、駅および、駅と洗足池を結ぶ主要な経路にサインを新設することになります。なお、公園内の既設サイン（案内サイン等）はそのままの活用となります。



ケーススタディ 4 : 多摩川周辺

サイン配置方針 : サインの新設

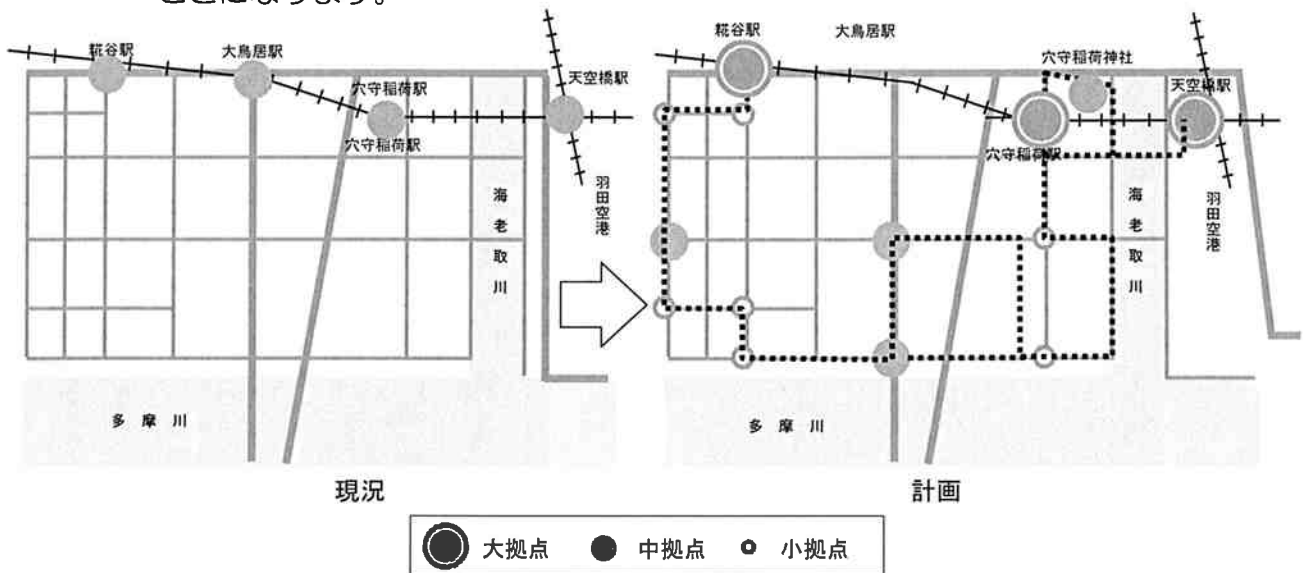
多摩川周辺のケーススタディは、行動起点を多摩川駅と沼部駅と想定すると、目的地となる施設は両駅間に線的に分布しています。（多摩川、丸子の渡し、多摩川台公園、桜坂、六郷用水跡等）。そのため、両駅を結ぶ主要な経路に線条配置によって配置することになります。



ケーススタディ 5 : 羽田・空港跡地周辺

サイン配置方針 : サインの新設

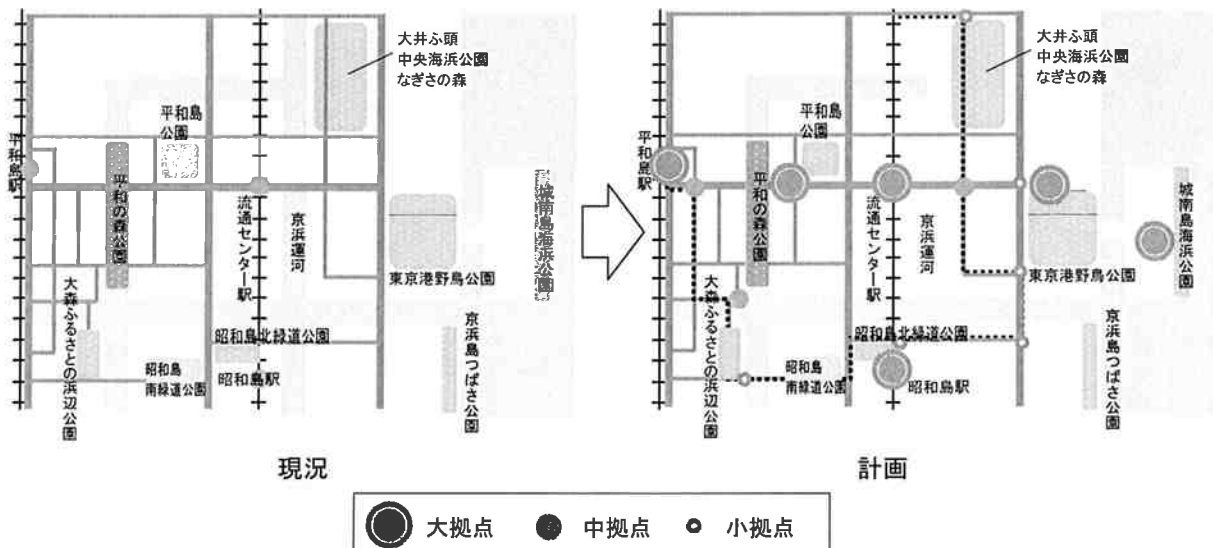
羽田・空港跡地周辺のケーススタディは、行動起点が糎谷駅、穴守稲荷駅、天空橋駅と想定すると、目的地となる施設は羽田七福いなりです。そのため、各駅と羽田七福いなりを結ぶ主要な経路を中心に線條配置によって配置することになります。



ケーススタディ 6 : 臨海部

サイン配置方針 : サインの新設

臨海部のケーススタディは、主要な行動起点が平和島駅及び流通センター駅と想定すると、目的地となる施設は、大森海苔のふるさと館や大田市場等の産業資源の他、東京港野鳥公園、平和島公園、大森ふるさとの浜辺公園等の大規模な公園・緑地です。そのため、駅と産業資源及び公園・緑地を結ぶ水辺を巡る主要な経路に線條配置によって配置することになります。



ケーススタディ7：池上周辺

サイン配置方針：既存サインの整理及びサインの新設

池上周辺のケーススタディは、行動起点を東急池上駅と想定すると、目的地となる場所は池上本門寺と池上梅園です。そのため、池上駅と池上本門寺・池上梅園を結ぶ主要な経路に線条配置によって配置することになります。

